

2007.3
創刊号

京都の森を守り育てる運動に参加しませんか

以森伝心

みんなで育てる京都の森

特集



理事長挨拶

はじめまして、
モデルフォレスト

特集

みんなで育てる京都の森

見上げれば ―京都の森ナビゲーション
京都の水のふるさと

森とつながる人

活動報告
イベント案内

京都モデルフォレスト協会 理事長挨拶

協会への期待

柏原 康夫 氏
京都商工会議所副会頭
(京都銀行頭取)



府民みんなで京都の森を守り育てよう、という考えのもと、京都モデルフォレスト協会が発足して、はや5ヶ月が経とうとしています。この間、予想を大きく上回る企業、団体、府民の方に入会をいただき、誠にありがたく、また心強く感じている次第です。

しかし、京都の森を見回しますと、いまだ問題を抱えた状況が続いております。人工林では間伐の遅れが目立ちますし、里山林でも松枯れやナラ枯れが進んでいます。こうした中、今年の冬は記録的な暖冬となり、地球温暖化がいよいよ加速しているという国際研究機関の報告もありました。

京都議定書の削減目標を達成するためにも、森林の整備は待ったなしの状況であり、我々協会としても、本腰を入れて京都の森林づくりに取り組んでいかねばならないと、肝に銘じているところです。

さて、当協会は、大きく分けて3つの事業を実施することとしております。企業等から寄附を受け森林整備を進める「森林づくり基金事業」、緑の募金法に基づき緑豊かな森づくりを支援する「緑の募金事業」、そして京都モデルフォレスト運動を推進するための「普及啓発事業」です。

このうち、普及啓発事業につきましては、これまで会員向けの森林整備体験教室を定期的で開催するとともに、ホームページを開設し、様々な森林情報を発信してきたところです。また、公募しておりました当協会のシンボルマークが決定し、今後、当協会及び京都モデルフォレスト運動の象徴として、PR活動等に活用していく予定です。

そして、このたび普及啓発事業の一環として、新たに情報誌「以森伝心」を発刊することになりました。もともとモデルフォレストとは、森林に関わるすべての利害関係者が、合意形成を図りながら、地域の森林づくりを進めていく、という考え方です。互いの意見を理解する上で、情報誌の果たす役割は大きいと思われれます。

また、冊子という形態から、幅広い年齢層の方により身近に森林を感じていただけるよう、工夫を凝らしてまいりたいと考えておりますし、会員の皆様の積極的な投稿も期待しているところです。

まもなく、新しい年度が始まります。会員の皆様のお力添えを得ながら、京都モデルフォレスト運動を力強く進めてまいりたいと考えておりますので、倍旧の御支援、御協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



シンボルマーク

昨年の12月から今年の1月まで公募していました、当協会のシンボルマークが決定いたしました。最高齢87歳から最年少14歳の応募者まで、全国42都道府県から360名、合計644点の応募がありました。入選者は、最優秀賞が信貴 正明(新潟県)さん、優秀賞が立志 哲洋(東京都)さん、信原 政幸(鳥取県)さん、東 信慶(福岡県)さんです。

このシンボルマークは、美しい森に囲まれた京都と、府民みんなが協力して森林を守り育てる運動を表現したものです。今後、協会のPRに役立てて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

情報誌の名称「以森伝心(いしんでんしん)」

京都の森を守り育てる活動を通じ、環境を想い、未来を考える我々の心を広く伝えよう、という意味を込めて名付けました。

Model Forest



Q

A

はじめまして、 モデルフォレスト

生まれたての京都モデルフォレスト協会の概要をQ&Aでお伝えします。



Q1

A モデルフォレストってなに？

地域ぐるみで行う、森林を核とした持続的な地域づくり活動のことです。1992年に行われた世界地球サミットで、カナダが提唱したのが始まりですが、今では18ヶ国39地域に広がっています。

『京都モデルフォレスト運動』は、森の恵みを受けている府民みんなで森を守り育む運動です。



手入れされて
いない暗い森

Q2

A どうして必要なの？

京都府の森林は府域の75%を占め、地域の貴重な財産であるにもかかわらず、薪や炭などの燃料や国内の木材を使わなくなったため、放置される森林が増えています。

放置された森(特に人工林)では、光が入らないため動植物が住みにくくなります。また、景観が損なわれ、土砂災害が発生しやすい森となります。

一方、それらの森を計画的に管理する担い手は、林業不振や高齢化などの社会的変化から、不足しています。今、皆で地域の森林のあり方を話し合い、手を加えていくことが必要とされています。



Q3

A どんな活動をするの？

森林は、地球温暖化や土砂災害を防止し、きれいな水や空気をつくり出し、心安らぐ景観を形成しています。また、木材の生産や環境教育、健康づくりなど、様々な働きを持ちます。

これらの森林をつくっていくために、森づくり活動への参加を促したり、必要な資金の寄付を受け入れ、活用したりします。



手入れされた
元気な森

Q4

A 誰が参加できるの？

モデルフォレスト運動は、森林所有者、川の上下流住民、NPO、企業、大学、行政など、森林と関わる地域の全ての人々が参加できる運動です。水や空気など、森の働きによる恩恵を受ける地域の全ての人々が参加して、地域の望ましい森づくりを考え、実行していきます。

Q5

A モデルフォレスト協会の役割は？

京都モデルフォレスト協会は、モデルフォレスト運動を推進するために、日本で初めて平成18年11月に設立しました。

協会では、森林を地域ぐるみで育てていくためのお手伝いをしていきます。例えば森づくり活動に参加する企業・団体にフィールドを提供するなど、地域の森林づくりの拠点となります。いろんな人に参加して、アイデアを出し、関わってもらう場としていきます。



Q6

A 私達になにができるの？

森づくり活動や、森づくりに対する活動場所・資金の提供にご協力ください。また京都モデルフォレスト協会に、アイデアや疑問を投げかけてください。

活動の趣旨に賛同される個人・団体は、どなたでも協会の会員となっていただくことができます。会員の皆様へは、活動情報や各種イベントのご案内をいたします。

あなたもぜひ参加してください！会員募集中！詳しくは協会のホームページもご覧ください。

<http://www.kyoto-modelforest.jp>

創刊特集 みんなで育てる 京都の森 ①

人の心を支える森林

有馬 頼底氏 京都仏教会理事長



キリスト教、イスラム教が一神教である一つの要因として、砂漠で生まれた宗教であることがあげられます。それに比べ、仏教はまさに森の宗教である要素が大であります。それが遠くインドから中国をへて日本に伝わると如実に表われます。日本古来の神道と交わる中で数々その影響を受け「山川草木悉有仏性（しつうぶっしょう）」つまり全ての自然には仏性が宿っているという仏教の自然観が形成されるのです。修行の場も比叡山や高野山のように山へ山へ向かいます。山や森、それ自体を神仏と仰ぐ修験宗の方々は森

と深くかかわる中で自らを鍛錬します。こうして森は信仰としての意味合いを持つと同時に現代においては癒しやトレッキングなど多くの人の心の支えとなる役目を果たしつづけています。私も数年前、千年以上生き続ける屋久島のスギに出会った時には感激し思わず手を合わせました。季節を感じさせ目を休め、水を蓄え風を柔らげる。そんな森の静かな語りかけを今私たちはしっかりと確実に聞く必要があると思います。

合 掌

次世代へ繋げる
リーダーの育成を

伊山 勇雄氏 「府民の森ひよし」 森林倶楽部会長



森林の中を歩いた日は体調がすこぶる良い。確かに、何かを感じます。春の芽吹き、夏の木陰、秋の紅葉、冬の育み。1年を通して、私達は森林の恩恵をいただいています。私達は、2002年3月3日に「府民の森ひよし」森林倶楽部を設立し、京都府南丹市に有る、「府民の森ひよし」で「森林施業や林業生産等の各種体験を通じて、森林・林業の認識を高め、貴重な緑を保全することの大切さを学ぶとともに、地域住民との交流を図る」目的でボランティア活動をしています。歩道整備、除・間伐、きのこ栽培、ベンチ作り、陶器野焼き、蔓篋編み、レザークラフト、樹木銘板作り、炭焼き、植生調査、測量、野鳥観察等を行っています。また、安全講

習や技術講習も行っています。「府民の森ひよし」をもっと充実し、多くの人が触れ合える森にしたいと思っています。現在、散策の森・観察の森・体験の森・森の広場、と大きく分けて4つのゾーンがあります。特に体験の森では今後あらゆる森林・里山体験ができるよう整備して行きます。昔ながらの体験や、これからのCO2対策への体験。貴重な森林を大切に整備し、楽しく安全に森林からの恩恵を受けたいと思います。次世代へ繋げるよう森林ボランティアリーダーの養成に京都モデルフォレスト協会の援助、ご指導を期待しています。一人でも多くが森林に接し、健康で有りますようお願いしています。

環境保全を願う

岡 正人氏 株式会社 ジェイ・エス・ピー 代表取締役社長



ジェイ・エス・ピーグループは、全国で学生マンションの企画開発・仲介・運営管理を行っており、学生向け賃貸「UniLife（ユニライフ）」ブランドの営業店を国内55店舗・海外2店舗展開し、全国で約39,000室を管理運営しています。当社は、環境に優しいマンションを選んで欲しい、または入居がきっかけで環境保全の大切さに気づき、エコへの関心を高めて欲しいという思いから、断熱効果のある屋上菜園の設置や太陽光発電の一部共用スペースでの利用、また菜園用堆肥としての生ゴミの再利用など『地

球環境負荷を軽減し、循環型社会の構築に貢献する』ことをテーマとしたマンション開発や、入居者である「学生」の皆様への環境学習の機会の提供などに取り組んでいます。当社は「環境保全や充実した生活空間のためには、本来の機能が果たせる森林づくりが不可欠である」という協会の趣旨に賛同しています。協会の活動を通じて、一人でも多くの方が森林のもつ役割や人と森林との関係を理解し、未来につながる豊かな社会が続くことを願っています。



京都モデルフォレスト協会が発足しました。そこで皆様に、日ごろ環境や森林に関して感じていること、取り組んでいること、これからやってみたいことなど、それぞれの視点からメッセージを寄せていただきました。京都モデルフォレスト協会は、みんなで京都の森を育てていきます。

奥田 幹生氏

京都府森林組合連合会
代表 理事長

間伐の実施で
森林を健全に



京都モデルフォレスト協会情報誌の創刊号が発行されるに当たり、一言申しあげます。

近年、地球温暖化を防止する方法のひとつとして、森林の持つ、炭素を固定する機能に注目が集まっております。この機能を最大限に発揮させるためには森林を健全に維持していくことが求められております。森林づくり活動への参加を希望される会員の皆さまは、このような環境問題に強い関心をお持ちと推察いたします。

私たち森林組合も、森林を健全にしていくことが課題であります。特に、戦後大量に植林されてきたスギやヒノキが間伐すべき時期を迎えており、モヤシのような森林を間伐することにより、健全な森林に再生していくことが喫緊の課題です。

また、間伐材が売れる値段より、出す費用の方が高つくために、切捨（きりすて）間伐（かんばつ）が一般的でしたが、一部の組合は、森林をまとめ、大きな面積で高性能林業機械を使用し、出す費用を抑えることにより、収益（しゅうえき）間伐をおこなっております。今後、府内の組合全体に収益間伐の普及を図り、間伐の推進に繋げていきたいと考えております。

森林作り活動を通じ会員の皆さまも、森林組合とのかわりも生まれてくると思いますので、今後ともよろしく願いますと共々、京都府内の森林をみんなの手で守り育てる運動を共に進めてまいりましょう。

小田 豊氏

長岡京市長

森林環境問題に
取り組んでいること



このたび、京都府内の森林を守り育てるため、(社)京都モデルフォレスト協会が多くの関係者の参画により昨年発足され、協会情報誌の創刊号を発刊されますことは、誠に意義深いことであり、心からお祝い申し上げます。

さて、緑豊かな西山は長岡京市の代表的な景観の一つですが、その大部分が民有林のため、燃料革命や木材価格の低下などにより戦後60年間にわたり手入れがされず荒廃化が進んでいます。また、丘陵地の竹林が人工林に侵入するなど西山の自然形態は大きく変わってきました。

本市は、京都府のご協力と森林所有者、地域住民、企業、ボランティア団体、行政などが参画協働する「西山森林整備推進協議会」を平成17年6月に設立し、~つなげたい みどりの西山 未来の子らへ~との願いのもと、市民の財産である西山を保全することを目的に「西山森林整備構想」を策定いたしました。

この構想は魅力ある里山を復活させるため、放置竹林の整備、人工林の間伐や枝打ち、雑木林の手入れ、林道や散策路の整備、自然との共生、環境教育などを推進することを目標に掲げており、官民の役割分担を明確にして実行するものであります。

また、平成18年度には林野庁の制度である里山エリア再生交付事業が採択され、国や府のご支援をいただき、飛躍的に森林整備が進捗する運びとなりました。

このように森林整備が進みますと、温室効果ガスの吸収源対策となり、地球温暖化の防止にも大いに貢献するものであります。本市の取り組みは地球規模では実に小さなものですが、こうした活動が全国に広がっていくことを期待しております。

結びに、持続可能な「森づくり」の構築をめざして、貴会の今後ますますのご発展と関係各位の熱き思いにご祈念を申し上げ、お祝いのことばといたします。

佐藤 啓子氏

(社)ガールスカウト日本
連盟 京都府支部長

ガールスカウト
の活動



ガールスカウト京都府支部では、昭和50年に上賀茂神社のご厚意により産業大学近くの神山を研修林としてお借りする事となり、その後大原にも研修林を持つことができました。

昭和60年から緑の少年団として、スカウトの森活動が始まり、研修林の下草刈りや枝打ちなどを毎年行ってきました。30年経った今、研修林の枝打ちはスカウトたちの手に届かないほど大きく育っています。

今でも毎月1回研修林などで定例活動を行っています。下草刈りをはじめ、樹木の学習や木の実の観察、バードウォッチング、時には専門家のご指導をいただ

きながら、キノコの栽培などもしています。このような研修林があることは本当に有難いことだと思います。スカウト達はいつも身近に自然を感じ、その中で活動することができます。

また、ガールスカウトでは、「チームマイナス6%」にも取り組んでいます。地球温暖化の問題を学びながら、自分達にできることから始めようとしています。

地球温暖化を防止し、この地球を未来の子どもたちにできるだけ美しいまま渡すためにも、森を守っていく大切さを、一人でも多くの子どもたちに理解してほしいと思います。

創刊特集 みんなで育てる 京都の森 ②



■ 千 玄室氏
茶道裏千家前家元
日本・国連親善大使

京都の自然の
恵みに感謝



四季折々の自然に恵まれた日本の美しさを象徴するかの様に、万葉の世界には「まほろばの大和麗し」という言葉があります。

殊に、山紫水明の地・京都には、東に北に西にと連なる山々の姿を見ることが出来ます。

木々が美しい緑を保ち、澄んだ水が上流から下流に流れ、風も水もさわやかであることを願い一盃のお茶を点てるとき、抹茶の緑色が地球の大自然につながっていることを感じます。

裏千家の中に「梅の井」という井戸があり、五百年もの間、決して濁れることなく名水が出ることも、京都が古都として

の景観と風情を保存し、自然環境を守ることができたからこそです。

私どもでは、井華水（午前四時から五時の間に汲む井戸の水）を一日のお茶の水に用い、一滴も無駄にすることなく、京都の自然の恵みに感謝を捧げながら一盃を呈しています。

禪に「杓底一残水 汲流千億人」という言葉があります。一滴の水、一本の木を大事にして初めて多くの命が新しい息吹を発するのです。

この尊い教えを実践し、京都の森林や水を守り、後世に美しい姿を伝えていきたいと祈念しております。

■ 田中 恒清氏
京都府神社庁庁長

「共生」の思想



我々の祖先は太古の昔より人知を超え、多くの恵みをお与え下さる山川草木等自然界のすべてのものに霊性を認め、畏敬と感謝の念をもって接してきました。神道はこのような神観念や自然観の中から発生し、日本人の生活文化の中に深く根を降してきました。

ご承知の通り我が国は二千年以上も前から米作りを続けてきました。水田を守るために森林を守り、森林は農業を助け、栄養のある水は川を流れ海の魚を養ってきました。海の水は雨となりまた森に帰ります。先人は循環を支えるため知恵を絞り木を植える文化を実現し、夫々に畏敬と感謝をもって相互に助け合ってきました。

今日においては便利で豊かな暮らしに流されこの大切な心を見失い、循環型社会

を壊してきました。予ねてより神社界では、この循環型社会の重要性や環境保護の理念に通じる神道の『共生』の思想を提唱し世界からも注目され共鳴されてきました。京都においては毎年「京都発神道とエコロジー」"鎮守の杜フェスタ"という催しを神社の社を中心に開催し、先人の伝統的自然観、自然を畏敬しその大いなる恩恵に感謝しつつ自然の中に生かさせて戴くという慎みの心を広く養ってもらおうと活動しています。

今回忘れられようとしていた森をモデルフォレストという新しい形で注目し、森を育んでいこうという運動はとても大事なことであり、協会の一員に加えて戴いたことに感謝し、府民の多くのご賛同を期待しています。

■ 辻井 重氏
(社)京都府木材組合連合会
会長

機関紙発刊
にあたり



昨年11月(社)京都モデルフォレスト協会が多くの企業、団体そして府民のご理解のもと設立され、いよいよ本格的な活動が開始され、その取組みは着実に広がっております。

申すまでも無くこの活動は森林を元気にすることが地球温暖化防止にとって極めて重要であるという発想のもと、多くの事業が計画されています。

とりわけ我々木材団体は森林資源を活用することにより、基盤が確立されており、そのために必要な、森林保護活動を行ってまいりましたが、それらは限定的なものであり決して充分なものとは言えませんでした。

今後、協会活動を通じて単に木材生産のみならず地球温暖化防止、国土の保全、景観形成、健康で安全な暮らしなど森林の恵みを多くの人たちが享受できる社会を作り上げていくことが急務であると考えます。

その為にも少しでも多くの人たちがみんなの財産である京都府の森林を自分たちで守り育てていこうという思いを共有し「京都モデルフォレスト協会」が日本全国そして世界に向けて多くのことを発信しつつ、資源循環型社会の構築を目指されますことを期待し、発刊にあたりお祝いのご挨拶とさせていただきます。



畑 正高氏

株式会社松栄堂
代表取締役社長

北山とともに



母の実家が京北ですので、懐深い北山の恵みには子供の頃から親しんできました。中学生の頃、「京都周辺の山々」という本に出会い、国土地理院発行の地図と磁石を頼りに次々に歩きました。制覇した道に線を入れるのが楽しく、お握りと果物を背によく出かけたものです。当時の北山にはまだまだ木馬道もあり、山道はただ歩く人だけのために静かなたらずまいでした。

自動車の免許を取ると、里の祖父を乗せて京北へ通うことも何度となくありました。祖父は、車窓の景色を楽しんで、小さな里にお社があると必ず帽子を脱いで車の中から一礼し、鬱蒼と茂る谷間などを走りぬける時には、手入れの行き届いた様子にひとり感嘆のため息をついて楽しんでいました。

桜が終わると、暖かな日差しに輝く谷

間を鳥のさえずりに誘われて、山菜取りが楽しくなります。秋のお彼岸の頃には金木犀の花が香り始め、山が忙しくなります。いよいよ山をほっておけなくなるのです。ひと月に及ぶ松茸シーズンですが、どれだけの本数が出るのか、こればかりは神のみぞ知る天任せ。気候の状況一つで、一シーズンの収穫本数は決められてしまいます。ならば、どれだけよい状況で収穫をするのか、ここが取り手の腕の見せどころ。親指大でも一本。団扇のような大きなヒラキでも一本なのです。大きく育てようとして山に残しておいても、鹿に食われたり、ナメクジにやられたり。最悪の時はどうも泥棒に入られているような・・・

豊かな北山の恵みをいただくために、少しは山の事も勉強しなくてはと、遅まきながら感じ始めている昨今です。

半田 良一氏

京都大学名誉教授

市民が地方自治を勝ち取る時



21世紀の政治の一つのキーワードは「地方分権」である。この言葉は、国から自治体への事務事業の移譲と解釈されがちだが、目指す方向は、地域の現場で生活する市民の協同による自治活動の権限を確立することにある。

一方現実には、グローバル化と新自由主義の民活路線とが招来したマイナス面として、農山村では、自営農業の解体と地域共同の崩壊、産業としての林業の衰退、自然環境や生態系の劣化が進み、また国のかたちとしては、首都の膨張・繁栄と対照的に地方は疲弊が目立ち、待ったなしの危機的状況に陥っている。

このように状況は極めて苦しいが、それ

だけに市民の自治活動に対する社会の期待は大きい。市民が真の地方自治を勝ち取る好機が到来したともいえる。府民各位は須らくプラス思考で、現場の事務事業をこなす技能を身につけ、存分に力量を発揮していただきたい。

協会の趣旨は、農山村にあって生業の灯を守り地域社会の再生に向け奮闘している人々や、広く自然保護・環境保全の運動を展開している人々を強く支援するとともに、様々なノウハウを編み出して連携・協力の媒体となることにある。

私の学識は多分に時代遅れかもしれないが、この意味で府民各位と連帯し、残る力を尽くして少しでもお役に立ちたいと思う。

山田 啓二氏

京都府知事

子供たちへ引き継ぐ



京都府では、数年前から、京都の森を府民みんなで守り育てるモデルフォレスト運動を進めてきました。そうした取組みの中で、昨年、運動を制度面から支える「京都府豊かな緑を守る条例」を施行し、そして、この運動の核となる京都モデルフォレスト協会が設立されたわけです。

協会には、すでに260を超える個人、団体の参加があると聞いて、たいへん喜ばしく感じておりますが、京都の森林づくりはこれからが本番であります。

面積の75%を占める京都府の森林のうち、人工林や里山林は、山村の高齢化、過疎化等により間伐の遅れなどが目立っています。このままでは、多様な森林の機能が損なわれる恐れがあり、緊急に手を入れて行かねばなりません。

京都議定書では、森林による二酸化炭

素吸収量が温室効果ガスの削減量にカウントされることになっており、地球温暖化を防止する上でも、森林の整備は不可欠であります。

京都府では、ウッドマイレージCO₂認証制度や森林吸収量認証制度を通じて、森林整備の必要性や府内産木材の良さ等を普及啓発するとともに、できるだけ多くの府民の皆様や企業、団体にモデルフォレスト運動へ御参加をいただき、林業関係者や森林所有者と一緒に、美しい京都の森林づくりを進めていきたいと考えております。

貴重な公共財産である森林を、良好な形で未来の子供たちへ引き継ぐのは、今を生きる我々大人の使命です。協会会員の皆様の絶大なる御支援をお願いする次第です。

vol.1

京都の水
のふるさと

あしう
芦生の森

水は、どこからくる？

蛇口ひとつひねりて出てくる水。心がホッとする美しい川辺。京都盆地の地下には、琵琶湖に匹敵する量の地下水が蓄えられています。京都は、水の豊かな地であり、古くから山紫水明の都と言われてきました。良質な水は、飲食やお風呂などの暮らしで、また田畑や工場などの産業で使われるだけではありません。かつては河川が道の役割を果たして人や物が行き交い、川に接する場所を基点としてまちが栄えました。そして京都では、酒、豆腐、茶の湯、染物などの文化を育み、私たちの生活を支えてきたのです。



はてさて、これらの水は、どこからくるのでしょうか？

答えは山の森。京都の川の元をたどってみると、京都府の真ん中に位置する山脈に行きつきます。京都府の水系は、「京都府の屋根」と言われる三国岳を起点とした山脈によって、南北にほぼ二分され、山脈から太平洋側へ流れていく、京都市以南の淀川水系と、日本海側へ流れていく南丹市美山町以北の由良川水系があります。

今回は、この由良川水系の源流に位置する、芦生原生林という、全国有数の原生林についてご紹介します。

美しい動植物の棲み家

芦生原生林は、南丹市美山町の北東に位置し、峠を挟んで、福井県や滋賀県が接しています。ここではブナやスギの大変美しい木々を見ることができます。芦生原生林は、私たちの水の源があるだけでなく、多くの野生生物の棲み家であり、これまでに確認された種類は、木本植物が243種、草本植物が532種、シダ植物が85種にのぼります。また、ツキノワグマ、カモシカ、ニホンザル、イノシシ、ヤマネなどの哺乳類や、コノハズク、ヤマセミなどの鳥類がおり、なんと鳥類だけで33科111種も記録されていて、まさに動植物の宝庫です。

自然のダム

雨が降ったときに、森林が無ければどうなるでしょうか？

「緑のダム」という言葉を聞いた事があるかもしれません。森には水を蓄える働きがあり、ダムのような役割を果たすのです。森の地面に厚く重なった落ち葉は、雨水をたっぷり吸収します。また、雨水は土中の根や土壌生物が作り出す隙間に蓄えられ、少しずつ地中を浸透する間にろ過され、きれいな水となって染み出してくるのです。芦生原生林に多く生えているブナは、特に高い保水力（土壌中に水を保つ力）を持ちます。

このようにして森があることにより、一気に雨水が流れ出して土砂災害を引き起こすのを防ぎ、逆に雨の少ない季節でも少しずつ水が染み出し、私たちの生活に潤いを与えます。そして水は川を形成し、利用されながら、ゆっくりゆっくり川や地下を通して海へと流れていくのです。海では再び水が蒸発し、雨となって山へもどります。水は、海、森、川をグルグルと循環しているのです。

京都府の水資源

丹波半島地域

大きな川がないため、日本海に注ぐ中小規模の川の水や地下水を利用。

京都市以南の南部地域

桂川、宇治川、木津川などの淀川に連なる大きな河川の水が、水道用水、農業・工業用水など多目的に利用されるほか、地下水も利用

由良川水系

芦生

三国岳

淀川水系

京都市中・北部地域

由良川水系の水を農業・工業用水、水道水源として幅広く利用。山間部では多くの水を利用できないが、小さな川の水や地下水を利用

京都市内

明治時代に建設された琵琶湖疏水により運ばれてくる琵琶湖の水を利用



シカが食べられない毒のあるトリカブトとバイケイソウだけの林床

芦生で行われている調査・研究

芦生原生林には、約4200haもの広大な京都大学の研究林があります。ここでは、自然の仕組みを解明し、人と自然が共存していくための、貴重な学術研究や実習が行われています。今回芦生研究林についてお話をしてくださったのは、芦生研究林林長の芝正己先生です。これまで研究林で行われてきた研究内容を大別すると、以下ようになります。

- ①天然林の再生機構と林分構造の発達および維持機構に関する研究
- ②森林の環境保全機能に関する研究
- ③森林の生物的要因や気象要因による被害の解析とその防除法に関する研究
- ④人工林の育成および収穫技術に関する研究
- ⑤森林の多目的利用と森林情報の処理に関する研究

さらに、2003年度よりセンター森林系が推進する「森林生態系」「森林環境系」「森林資源共存系」の3プロジェクト研究が開始されています。その中で特に目を見張るのが、約14haを対象として実施されている森林生態系研究プロジェクトです。調査区内に実生消長調査プロットやトラップ(落ちてきた種子を拾う網の袋)を設置し、森林を再生するときに必要となる基礎資料づくりを進めています。



プロット内の実生判別と消長調査

弱まる森のちから

皆さんも感じられているかもしれませんが、今年の冬は異常な暖かさでした。芦生でも例年に無い雪の少なさでした。今、少しずつ気候がおかしくなっているように、私たちの森にも変化が起きてきているようです。

まず深刻なのが、シカによる被害です。シカの異常発生により、植生が変化しています。シカが増える原因は、雪が減って冬を越えやすくなったからとも、人がシカを食べなくなったからとも言われています。増えすぎたシカが笹や木の芽、種子までも食べつくしてしまい、下層の植生や後継の樹木が育たず、本来植物に覆われているはずの土壌があらわれて、雨水が直接地面を叩きつけ、土砂が流出してしまいます。芦生研究林では、これらのシカの行動パターンについても調査しています。

2つ目の問題が、「カシノナガキクイムシ」という虫によって、ナラの木が枯れる被害。これも全国的な問題ですが、芦生研究林では2002年の夏にはじめて被害が確認され、当初は溪流沿いの比較的大径のミズナラに顕著に現れましたが、その後は全域的に広がっています。環境面の問題から、殺虫剤や殺菌剤等の使用は難しく、研究レベルでの防除法の検討は試みられていますが、今のところ、これという対策方法は、まだ見つかっていません。

京都大学フィールド科学教育研究センター 森林ステーション 芦生研究林

芦生研究林は、大正10年に、教育・研究を目的に、旧知井村の共有林の一部に設置されました。暖温带林から冷温带林に移行する中間に位置するため、植物の種類が極めて多く、研究林の90%以上を占めている天然林(二次林を含む)は、圧巻です。

芦生研究林
〒601-0703 京都府南丹市美山町芦生
TEL. 0771-77-0321 FAX. 0771-77-0323
<http://www.fsere.kais.kyoto-u.ac.jp>



このムシの被害は、弱いミズナラを淘汰させていく現象と捉えている人もいます。しかし、一度枯れてしまうと、新しい芽もシカに食べられてしまうため、なかなか更新ができません。自然のシステムはとてものろいので、全てを保護すればよいというわけでもありません。今、様々な面で山が弱ってきており、これらにどう対処していけばよいのかが模索されています。

森と人とのつきあい

芦生の森にストレスを与えている1つの原因に、一般入林者の問題がありそうです。芦生研究林で把握している2005年度の研究林の利用者総数は、約延べ1万4000人です。芦生研究林に入るには、入山届けが必要ですが、問題となっているのは、届け出をしない商業目的のツアー会社等による勝手な入山。大量の人が押し寄せて地面が踏み荒らされ、貴重な自然が破壊されてしまっています。

美しい森林を楽しみたい気持ちは誰にもあるものですが、私たちの水をつくり出し、貴重な動植物が生息する地を、私たち自身で壊してしまつてよいのでしょうか。荒廃があまりにも進めば、その地域を保護し、誰も入れないようにするしか方法がなくなります。一部の貴重な森林は、時にはそつと見守ってあげることも大切かもしれません。この森を楽しみたい方は、専門のガイドや、研究林が主催するツアーに参加して、ルールを守りながら楽しみましょう。

*研究林が主催するツアーに関する情報は、研究林のホームページ(<http://www.fsere.kais.kyoto-u.ac.jp/asiu/index.html>)で見ることができます。また芦生山の家(tel:0771-77-0290)や、(財)美山町自然文化村(tel:0771-77-0014)でもガイドツアーを行っています。



特定非営利活動法人 芦生自然学校

(特)芦生自然学校は、2005年から芦生の豊かな自然を活かして活動しています。地域の子供たちはもちろん、都市の子供たちや大人にも向けて、自然観察やアウトドアスポーツ、農業体験、田舎生活体験など「自然」と「自然の中の遊び、暮らし」を幅広く知ることができる場を提供しています。

芦生の豊かな情緒を活かしたダイナミックなキャンプやラフティング、季節ごとに変わる動植物との触れ合い、時には木こりになってみたり、地元の人の知恵を学んだり、自分たちだけではちょっとできない、地域の自然や文化との触れ合い方を教えてくれます。

親子で、友達同士で、週末に芦生の自然を体感しに出かけたい方がいらっしゃいますか？



問い合わせ先:

(特)芦生自然学校

京都府南丹市美山町
芦生ステーション14-2
TEL/FAX: 0771-77-0500
E-mail: office@ashin.org
HP: <http://www.ashin.org>

森とつながる

森と酒造り **キンシ正宗(株)**を訪ねて

お酒とお水の関係

京都は名高い名水の地である。そんな京都の市街地のど真ん中で、今なお地下水を汲みながら、日本酒やビールが造られていることをご存知だろうか。

キンシ正宗株式会社は、1781年に京都御所の近くで、若狭出身の初代松屋久兵衛が酒造りを行ったことから始まる。ビールや焼酎にもまして、日本酒は水が味の決め手となる。豊かな京都盆地の地下水は酒造りに適しており、水に含まれる適度なミネラル分が糖化と酵素のバランスを良くし、やわらかできめ細かな端麗な味を醸成する。

京都市内には、大正の初め頃には約100もの造り酒屋が存在し、井戸による地下水を利用していた。しかし、店の規模が拡大したり、町並みに変化していくとともに、より豊富で質の良い水を求め、また、川から船での出荷が便利である場所を求めた結果、多くの酒屋が伏見へと移動していった。

水の大切さに気づく

冷蔵庫の普及や消費者の嗜好の多様化により、日本酒の需要は、現在低下している。酒の量産を目指していたかつてに比べ、酒造りには、より美味しいお酒を手間をかけてつくる姿勢が求められているのだ。そうした味への追求を重ねていくうちに、キンシ正宗(株)では、あらためて水の大切さに気づいた。

説明して下さった製造物流部長の田中明さんによると、平成7年に伏見区の本社工場の新しい蔵「新常磐蔵」を施工した際、社員にも日々目に付くようにと、井戸を配置した。それまで地下水を使っているということを忘れがちであった社員も、井戸水を毎日目にする中で、自然と意識できるようになったそうだ。この井戸水は、一時間あたり70トンの水を得ることができる。また、会費を支払えば、好きに汲んでよい。

井戸の水は、やわらかく、おいしい。ありがたいことに、今のところ地下水が減少したりする様子は無いとのことだ。



本社工場の井戸水

酒造りを通じたヒトと自然

「人間の体の半分以上は水でできていて、一日に2.6リットルの水分を取り入れては排出している。その水を汚い心や悪口で汚してはいけない。ヒトと自然は一体で、きれいなままで水を出し、海へ流し、また森へ返していく。自然と一緒にみんなで水をきれいに使っていこう。」と小学生へ呼びかける田中さん。5~6年前から、年に二回小学校で授業を行い、水の大切さを伝えている。他にも予め予約すれば、酒造りの行程を見ながら、蔵出しの酒を試飲ができる見学ツアー(1名200円)を行ったり、大学生や留学生の受け入れなどもして、お酒造りの魅力と文化から、自然とのつながりまでを伝えていくことに取り組んでいる。

「酒を造る水がどこからくるかと言えば、京都市の北の森。最近ほとんど自分たちの関心が広がっていて、今度は森の問題にも取り組みたい。」酒の生産者による、酒を通じたヒトと自然への挑戦は、まだまだ続く。



本社の井戸水と田中さん

キンシ正宗堀野記念館

キンシ正宗(株)の発祥の地にあるキンシ正宗堀野記念館では、清らかに流れ出る名水を眺めることができる。これは浅井戸と呼ばれる、わずかに地下6mから湧き出ている水だ。その量は、一時間に約3トン。少し掘るだけで、こんなにも清らかな水が得られるのだというから驚きだ。隣接する「京都町家麦酒醸造所」でつくられたビール等も楽しめる。

開館：11:00~21:00(記念館は17:00まで)

休館日：毎月曜日(祭日の場合は翌日に振替)

お盆・年末年始

入館料：大人300円、学生200円(観光ガイド付)

*売店及びビアホールの利用は入館料不要

TEL・FAX：075-223-2072

アクセス：地下鉄丸太町駅下車7番出口から徒歩10分

住所：京都市中京区堀野町二条上ル亀屋町172

●各ビールグラス一杯630円

●日本酒飲みくらベセット630円(グラス3杯)



キンシ正宗堀野記念館



桃乃井の名水

活動報告

第1回森林整備体験教室 間伐、枝打ち

協会発足後初めての行事となる森林整備(間伐、枝打ち)体験教室を京都市にある京都府立大学の大枝演習林で実施しました。

天気にも恵まれ、38名もの方々に参加いただき、府立大学の上田先生に間伐の意義等のお話を伺ったあと、府立大学生を中心に演習林をフィールドとして森林ボランティア活動を行っている「森なかま」のメンバーにも手伝ってもらい体験しました。

森林に密集して生えていたヒノキをみんなで汗を流しながら一本ずつ切りました。中には高さが15m以上もあるようなヒノキが切り倒されると拍手や歓声が上がり、暗かった林内に光が射し込み、森が息を吹き返さるまで森林が蘇るようでした。

昼食では暖かい豚汁、体験終了後は焼き芋と薪や炭を使ったスタッフ手作りの料理も楽しんでいただきました。



12/3

第2回森林整備体験教室 侵入竹の伐採

井手町にご協力いただき、大正池周辺の竹林で実施しました。約30名の協会参加者に地元の3つのNPOとスタッフあわせ約70名が集まりました。

京都大学の柴田助教授から説明を受けたあと、森林インストラクターの指導のもとに体験。密集して生えていた竹林が見る見るうちにすっきりとしていきましたが、さすがに地元NPOの方々には慣れたもので、手際よさに感心しました。

近くで竹炭を焼いておられる永田さんに切った竹を利用してもらえることになりました。予定時間をオーバーしても皆さん熱心に切った竹を運び出し、その量はなんと2トントラック3台分。人の力はあなどれないものです。午後は、大正池を森林観察しながら一周し、森林のことを少し身近に感じてもらえるようになったのではないのでしょうか。



1/27

第3回森林整備体験教室 マツタケ林の整備

亀岡市の湯の花温泉の一面にある「京都・畑河」でマツタケ林の整備を実施しました。少し肌寒くはありましたが、協会参加者に地元の方々、「まつたけ十字軍運動」のメンバーとスタッフあわせ約50名が集まりました。

午前中は、吉村文彦先生からマツタケの不思議な生態などについて講義を受け、参加者はユーモアを交えた楽しいお話に耳を傾けていました。昼食時には京都・畑河さんのご好意で、取れたてのしいたけを振舞っていただきました。

午後は、マツタケ十字軍運動のメンバーの指導のもと、マツノザイセンチュウ病(松くい虫)で枯れ切り倒されていた松を運び出し、放置されて藪状になっていた林を、陽があたり乾燥しすぎないように適度に溜木を残して切り払いました。

きれいになった地面は、マツタケが出やすいように落ち葉や腐植(土になりつつある落ち葉など)を取り除き、「これならマツタケも出そうや」との声もでました。



3/17

発足記念シンポジウム開催

2月4日(日)に協会の発足記念シンポジウムを京都大学百周年時計台記念館百周年記念ホールで約250名の方にご参加いただき開催しました。



“ニッセイの森”友の会の活動に協力!

1月20日(土)に、“ニッセイの森”友の会の活動の一環として、精華町の「花空間けいはんな」で、活動が行われました。68名の方が参加され、樹木観察、土の状況の調査、広葉樹の抜き伐りなどの里山保全体験活動とイロハモミジの記念植樹が行われました。



TOPIC 森の健康診断リーダー養成研修

今冬には珍しく寒い日でしたが、南丹市にある「府民の森ひよし」で38名の方々に集まっていただき、森の健康診断リーダー養成実習を開催しました。

午前中は、木工研修館において、国民森林会議会長で名古屋大学名誉教授の只木良也先生から「日本の森の現状と森の健康診断」と題して講義を受けました。午後は愛知県の矢作川水系森林ボランティア協議会から来ていただいた4名の方の指導の下、時折吹雪くなかでしたが、皆さん熱心に野外での研修も受けていただきました。

5月には、もう一度リーダー養成研修を開催し、今年中に森の健康診断を、リーダーと多くのボランティアの参加の下、実施したいと考えています。



森の健康診断とは？

愛知県の矢作川流域で始められた森林ボランティア・市民・研究者の協働で行う手づくりの人工林調査です。市民にも手に入れやすい100円グッズなどの身近な道具を駆使して、簡単な方法で楽しく森を調べることができます。



木の密度を調べる。



どんな植物が生えているか調べる。



持ち帰って計算する。

IVENT

新緑祭 in 新風館

- 日時 4月27日(金) 17:00~19:00
- 場所 新風館 中庭ホール等
- 主催 (社)京都モデルフォレスト協会、京都市 など

- ・新緑コンサートPart I
「間伐材で作ったアルプホルンの演奏」
中川重年ほか
- ・シンボルマーク表彰式
- ・狂言「鼻」
茂山七五三、茂山茂、網谷正美ほか
- ・寄付金贈呈式、感謝状贈呈式
- ・新緑コンサートPart II
「ハーブコンサート」
内田奈織

- 期間中 開催
- ★木製品等の展示、販売
- ★街頭募金活動

挑戦！ 森林クロスワード

キーワードを元に木の名前を置きかみ、ア～カを並べて一つの言葉をつくらう。

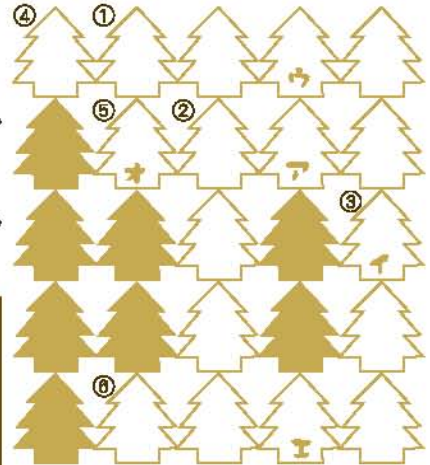
横のキーワード

- ①お寿司にしてもおいしい？
- ②葉の裏に文字が書けるため、「郵便の木」とも呼ばれる。
- ③芦生にはえる保水力の高い木。

縦のキーワード

- ④辛いスパイスと同じ名前。
- ⑤京都府の木は、〇〇〇〇スギ。
- ⑥2～3月に咲き、「ゲイシュンカ（迎春花）」とも言う。

正解者には、抽選で10名様に、緑の募金キャラクター「どんぐり君グッズ」をプレゼント！
連絡先と答えを記入して、E-mailかFAX、郵送で下記の宛先までご応募ください。
締め切り：4月末日



答え

ア ○ ○ ○ ○ ○

イ ○ ○ ○ ○ ○

ウ ○ ○ ○ ○ ○

エ ○ ○ ○ ○ ○

オ ○ ○ ○ ○ ○

「緑の募金」を通じて森林(もり)づくりにご協力を!

—緑の募金でふせごう地球温暖化—

緑の募金は、地球温暖化の防止、安全で安心な暮らし、心身の健康づくり、人と野生動物との共存など、私たちの暮らしを支えるさまざまな森林(もり)づくりに使われています。
春の募金は3月20日～5月31日です(緑の募金全国一斉強調月間【緑の月間】4月15日～5月14日)。
街頭や職場、地域での取組みにご協力をお願いします。



発行:社団法人 京都モデルフォレスト協会

〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町 京都府農林水産部 林務課内

Tel & Fax:075-414-1270 URL:<http://www.kyoto-modelforest.jp> E-mail:kyomori@kyoto-modelforest.jp

企画・編集:株式会社Hibana 平成19年3月発行